

国土学事始め



大石久和

国土技術研究センター理事長

か、三方を山に囲まれ一方が海に開かれていた扇状地や三角州でできています。

若いころ、兵庫県の村岡町と温泉町を結ぶ春來峠をトンネル化する事業に携わったことがあります。峠を越えるために連続するヘアピンカーブで頂上付近に至る旧道は、積雪寒冷地にあることもあって交通の難所でした。これをあ

落が、言葉を異にするほどに分断されていたのです。昭和の時代にこのような話が伝わるほど、わが国は人びとの生活エリアが孤立して閉じていたのです。これは、イギリス、フランス、ドイツなどの国の大半が一つの平野で構成されていることの対比として、よく理解しておきたい事柄なのです。

峠の物語・地域文化合衆国

より高くない位置でトンネルにして交通の円滑化や事故防止を図ろうとしたのです。開通したときの地域の喜びの様子は、生涯忘れられない感激として記憶に新しいものがあります。

小さな集落がそれぞれに、またいくつかが連携して地域独特の文化を育んできました。従って、もともとわが国は「地域文化合衆国」の要素があったのです。その国だからこそ「峠」という概念を必要としたのです。峠という漢

域を分断し、越えるためには大変な労力を必要とするが、越えることですばらしい異文化と触れ合える。漢字を作った中国では必要としなかった概念が「峠」なのです。われわれは、この言葉を複雑な思いを込めて使ってきたのです。この言葉が、多くの小説のタイトルになっていることでも明らかだと思います。

わが国土は、フランスよりやや小さく、ドイツよりやや大きいという、ヨーロッパ諸国に比べてもまずまずの広さを持っています。しかし、人が住んだり活動できるエリアである平野は、細長い列島のなかで山脈に分断されてまもなく、小さく散在しています。大きい平野といえは関東平野くらいで、その他の平野は、四方を山に囲まれた盆地

このとき、厳しい春來峠が分断していた集落では、言葉が異なると教えてもらったのです。峠に隣接する二つの集

要としたのです。峠という漢字がわが国でつくられた、いわゆる国字であることはよく知られた事実です。地域と地

でしようか。